

# 篆隸万象名義における漢文節による注釈の構造化記述について

李 媛<sup>1</sup>

## 1. はじめに

『篆隸万象名義』は平安初期に弘法大師空海により編纂された漢字字書で、中国南北朝・梁の顧野王の原本『玉篇』を簡約化したものである。従来の『篆隸万象名義』の意味注記についての研究は単字注を中心としていたが、次のように漢文節<sup>2</sup>によるものも存在する。これは先行研究ではあまり顧みられることのなかった論点である。

甥 所京反。妻昆弟為甥。(第1帖67丁裏)

音 猗金反。金石土革絲木匏竹八音。(第3帖25丁表)

伝統的な文献学の手法では、多数の資料を総合的に扱うことや特定の内容の抽出は容易ではなかったが、筆者も構築に関わった『篆隸万象名義』の全文電子テキストデータベースを利用し、漢文節による意味注記を持つ項目を検索したところ、約16,000項目の中7,500項目(約45%)を占めることが明らかになった。

李(2021)<sup>11</sup>では、これら漢文節の意味注記の実態から『篆隸万象名義』の漢字字書としての性格を考察し、次の結論を得られた。

『篆隸万象名義』の注文では、単字注による意味注記が主体とであり、字書的属性が強い。しかし所々、漢文節による原本『玉篇』の原典例文や注疏の引用があり、原本『玉篇』の類書性を継承する内容を持っている。したがって『篆隸万象名義』の性格は、字書的属性と類書的属性を兼有するものと言える。『篆隸万象名義』の全体六帖にわたる漢文節による意味注記のうち、原撰部分の第四帖の本草にあたる部分が、漢文節による意味注記の比率が高く、宋本『玉篇』と比較して、その内容も最も詳しい。原撰部分に関しては、弘法大師空海の内容に対する関心の高さを反映する部分と言える。さらに、全体的に、身体・音律・飲食・住居・疾患・本草・禾穀・水文・動物・衣類など特定の意味領域に関する部首に属する項目において、漢文節による意味注記の占める割合が高く、類書的属性が強い傾向が見られる。

一方で、筆者はこれまでに、TEI P5ガイドラインによる『篆隸万象名義』の構造化記述に取り組んできたが、その内容は主にサンプルデータや古辞書の項目構造の特徴に即した考察にとどまっていた。さらに、対象としてきたのは、主に『篆隸万象名義』における主要な注文形式である単字注の項目であった。しかしながら、前述の漢文節による意味注記は、『篆隸万象名義』の辞書としての性格に深く関わる重要な要素である。このような漢文節による意味注記の項目についてもTEIガイドラインに基づいて構造化記述を行うことができれば、当該部分の情報を抽出したり、関連する他の項目と比較したりすることが可能になる。本稿では、『篆隸万象名義』における漢文節による注釈<sup>3</sup>の構造化記述について試みることにする。

<sup>1</sup> Li Yuan, 京都大学人文科学研究所附属人文情報学創新センター

<sup>2</sup> 筆者により二字以上の語・句による積義を漢文節と定義する。

<sup>3</sup> 以下、篆隸万象名義における漢文節による注釈に関連する内容については、2021年筆者が執筆した論考に依拠しつつ述べてみたい。

## 2. 『篆隸万象名義』に関する字書的属性と類書的属性

『篆隸万象名義』は顧野王の原本『玉篇』に依拠して編纂された漢字字書である。原本『玉篇』は多くの儒家經典、注疏、小学書の内容を集大成した、用例・釈義・異体字等の記述が大変豊富な字書である。しかし、あまりもの詳細さにより、また参照・検閲の便利を図るため、編纂されてまもなく改編修正が行われた。原本『玉篇』の性質については、小島(1977)では「『玉篇』は、字書で云へば、「類書」的内容を含む」と言及された。さらに、儒・仏・道の三教の内容が含まれた教戒小説『三教指帰』の述作の過程に関して、「空海は『玉篇』にみえる訓詁を学び、これをその表現に利用する」と指摘した。岸田(1992)では原本『玉篇』について、「用例が正確であり、鄭玄・馬融・孔安国・王逸・郭璞などの説を引き、類書としての性格を持つ本格的な辞書」との指摘があった。すなわち、原本『玉篇』は、漢字字書というより、多くの佳句を集めた類書的属性を有すると言える。

しかし、原本『玉篇』に対して、『篆隸万象名義』は原典例文及び注疏による釈義を削って、単漢字による意味注記が主体となり、辞書性が強い字書となった。この点については、白藤(2006)は「本書(『篆隸万象名義』)は古本玉篇の出典名はすべて略し、辞書的注を徹底しようとしたものである」と明確に指摘した。すなわち、原本『玉篇』は類書性が強く、『篆隸万象名義』は辞書性がより強いものとされる。

原本『玉篇』は掲出字を含む多くの儒家經典の原文を用例として挙げ、さらに注釈家による注釈を加えている。このように經典中の実用例を重視すること、そしてその用例のコンテキスト(文脈)に相応する注釈内容を持つことは、類書の属性の現れである。

一方で『篆隸万象名義』は經典の原文用例を(出典名や注釈家の名前も含め)をほぼ削除し、注家解釈・小学書、そして野王案語を選別し、単字注を中心として注文釈義の部分形成しており、字書的属性を強く示している。しかし、一部の項目の注文は、原文用例や注家解釈から伝承した内容が残り、辞書性が強い『篆隸万象名義』の中、原本『玉篇』の類書性を継承した部分(項目)であると言える。

このように、『篆隸万象名義』に字書的属性が強い部分と類書的属性が強い部分が共存する原因として次の二つの仮説が考えられる。

### 1 編纂目的の影響

例えば特定の部首において、高い比率の漢文節による釈義を確認できる場合、これらの特定の意味領域では、編纂者自身の関心によって、辞書的な釈義より、類書的な釈義を取り入れる方針であった可能性がある」と推定できる。この背後に実用性、もしくは文学的表現などの目的による影響と考えられる。岸田(1992)は『篆隸万象名義』における名物(草花や動物)への深い関心を指摘している。

### 2 分担編纂による影響

巻によって、辞書的な釈義、類書的な釈義に置かれる重点が異なることが想定できる。篆隸万象名義には原撰部分と続撰部分があり、編纂グループが異なることは明白である。そして、原撰部分に限っても、すべてを多忙の空海がみずから編纂したとは考えられな

いため、複数の弟子に任命し、各巻を編纂したことが推測できる。そこで分担編纂によって採録内容に影響が生じたものかとも推定される。

### 3. 『篆隸万象名義』の属性についての先行研究

漢文節による意味注記はこれまでにあまり顧みられることのなかった論点であるが、次の二つの先行研究では言及されている。それぞれの内容を確認しておく。

小島（1977）では、原本『玉篇』の性格及び『篆隸万象名義』の編纂について次の指摘がある。

『玉篇』は上代の文字に関する玉手箱であつた。そこに引用された訓詁は同時にその出典の佳句佳文をも記憶するやうな仕組みにできてゐる。

空海は『玉篇』を勉強するために早くよりその抄出を試みたかもしれない。これはまづ「自分のため」であつた。しかもそこはやはり賢明な空海のこと、やがて帰朝後、世のため人のため、教育的啓蒙的な目的のため、進んでその抄出を行ひ、その抄出本、『万象名義』の出現に至つたものであらう。

小島氏の指摘のように、『篆隸万象名義』の内容には、空海自身が「玉篇を勉強するため」に抄出した部分と「世のための人のため、教育的啓蒙的な目的のため」に抄出した部分とが共存するはずである。

岸田（1992）では、原本『玉篇』について、「古典における用例を挙げ、字義を説明した書である。用例が正確であり、鄭玄、馬融、孔安国、王逸、郭璞などの説を引き、類書としての性格を持つ本格的な辞書として、信頼に足るものであつた。」とあるように、その類書的属性を指摘している。さらに、「𪛗」の字にある「内貞外𪛗」の義注の例等を挙げて、「この「一般の人に分かりにくい」点をもって、小島氏は『萬象名義』を「空海の覚書の役目をもつとみるべきであろう」とした。『萬象名義』が、学徒に文字の意味を教える書として書かれたのではないことは明白である。自らの覚えのために、備忘録として書かれたものと考えられるのである。」と述べ、『篆隸万象名義』が「辞書の読み書きするための実用的な役割」から離れ、著者空海自身が深い関心を持つ草花や異形の動物に対して抄録したものであると指摘した。

### 4. 原本玉篇残巻とそのデータベース

原本『玉篇』は中国で早く散逸し、日本では約八分の一の残巻が伝存している。全体ではないが、これらの7巻の残巻から原本『玉篇』の原貌を窺うことができる。原本『玉篇』残巻とその所蔵状況について、岡井（1933）と池田（2014）とを参照すると、詳細は次の表1の通りである。

表 1 原本玉篇残巻とその所蔵状況

巻	八	九			十八	十九	二十二	二十四	二十七	
収録部首	心部	言部～冊部	冊部～欠部	欠部～牽部	放部～方部	水部	山部～宀部	魚部	糸部前半	糸部～索部
所蔵機関	大東急記念文庫	早稲田大学図書館蔵 * 誦部不明	京都国立博物館蔵 (福井崇蘭館旧蔵)	早稲田大学図書館蔵	藤田家(東大寺尊勝院旧蔵)*車部の「輶～輯」・「輶～輦」不明	藤田家(東大寺尊勝院旧蔵)*「冷～湛」安田文庫旧蔵、現蔵未詳	神宮文庫蔵	大福光寺蔵	高山寺蔵(糸～緞)	石山寺蔵(經～縵)

筆者が所属した北海道大学文学研究院言語科学講座池田証壽研究室が推進している平安時代漢字字書総合データベース (HDIC) プロジェクトでは、その一環として、原本『玉篇』残巻の内容を収録し、サブデータベースとして原本玉篇残巻データベースを構築した。データベース構築に当たっては、東方文化学院『東方文化叢書第六』所収の複製本及び他の既刊の複製本を中心にしながら、Web 公開の写真画像も参照しておこなった。複製本・写真画像が存しないが、翻刻本文がある場合はそれを参照した<sup>4</sup>。原本『玉篇』残巻には、掲出字 2,087 字に対し、注文約 87,300 字が存し、一掲出字あたりの注文字数は平均約 41 字である。一方、『篆隸万象名義』には、掲出字 16,523 字<sup>5</sup>に対し、注文約 113,000 字が存し、一掲出字あたりの注文字数は平均約 7 字である。

## 5. 原本玉篇と篆隸万象名義の注文構成

### 5.1 項目構成

一般的に字書の内容は、漢字の三要素である形・音・義をめぐって記述を展開する。字書項目の各構成部分は、字形・字音・字義に対応しており、具体的には、掲出字・字体注記(字形)、反切・直音注(字音)、意味注記(字義)などを含む。

原本『玉篇』の注文の構成は、まず反切で字音を示し、次いで多くの儒家經典の原文と注釈書の解釈を載せる。さらに小学書による訓詁積義を引用し、著者顧野王の案語を付す。異体字注記や、部首の違う異体字を参照する注記を加えることもある。前述のように原本『玉篇』は出典を明記する字書であり、經典名・注釈家名・小学書名を詳細に記載する。次の「記」の項目を例に、その構造と内容を示す(図 1)。この例で確認できるように、原本『玉篇』の項目構造はかなり複雑である。

<sup>4</sup> 池田証壽「平安時代漢字字書総合データベース：現状と課題 2014 夏」(『漢デジ 2014—デジタル翻刻の未来』、京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター、2014)、pp.3-43.

<sup>5</sup> 『篆隸万象名義』における隸書掲出字・脱字 A・埋字 A・埋字 B の総字数である。すなわち、高山寺本『篆隸万象名義』にその存在を確認できる掲出字の総字数である。李媛「埋字と脱字—篆隸万象名義の掲出字数をめぐる問題—」(『訓点語と訓点資料』135、2015) pp.37-56.

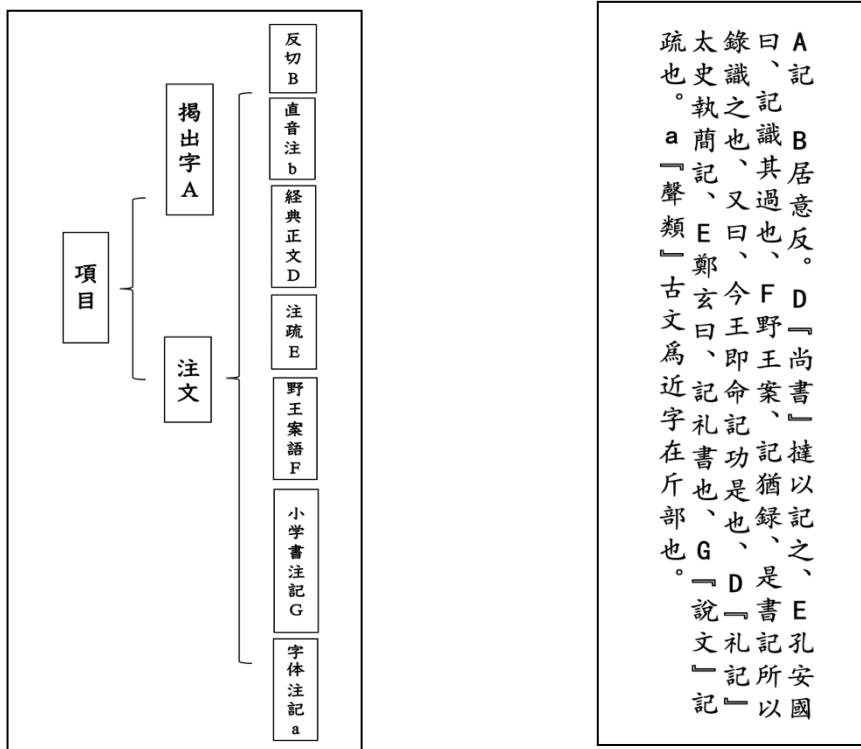


図1 原本『玉篇』の項目構造と「記」の例

一方で、『篆隸万象名義』は原本『玉篇』の注文内容を大幅に縮約した字書である。意味注記の主体は単漢字によるが、漢文節による釈義も存する。次に、項目の構造と内容の例を示す(図2)。

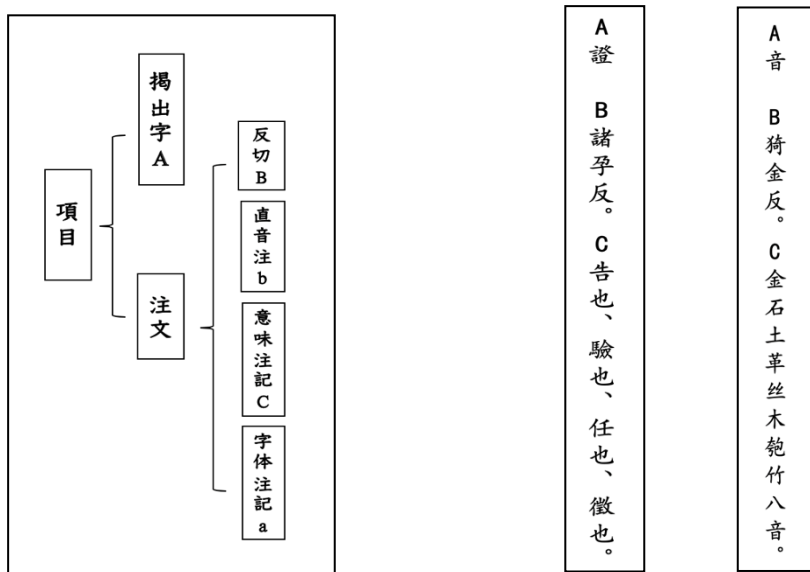


図2 『篆隸万象名義』の項目構造と「音」「證」の例

## 5.2 『篆隸万象名義』の意味注記の形成

上記の項目構造の分析でも分かるように、原本『玉篇』はかなり詳細な記述を持つ字書であり、意味注記の部分は、DEFGの四つの部分から構成される。經典原文の例文と対応する注釈書の解釈が「文脈付きの意味注記」のD・Eで、小学書による訓詁が「一般の意味注記」のGで、野王案語による釈義が「補完的な意味注記」のFである。この中でD・Eの部分が類書的属性を強く表す内容である。

一方で、『篆隸万象名義』は、原本『玉篇』の類書的な内容をなるべく排除し、上記のDEFG部分から単漢字注を網羅的に抽出し、文脈となる經典原文の例文及び典拠名等を取り入れない方針をとっている。しかし、一部の項目の注文では、漢文節による原典、注疏から伝承した内容を残す。

『篆隸万象名義』の意味注記の形成とその特徴について次の図3にまとめた。

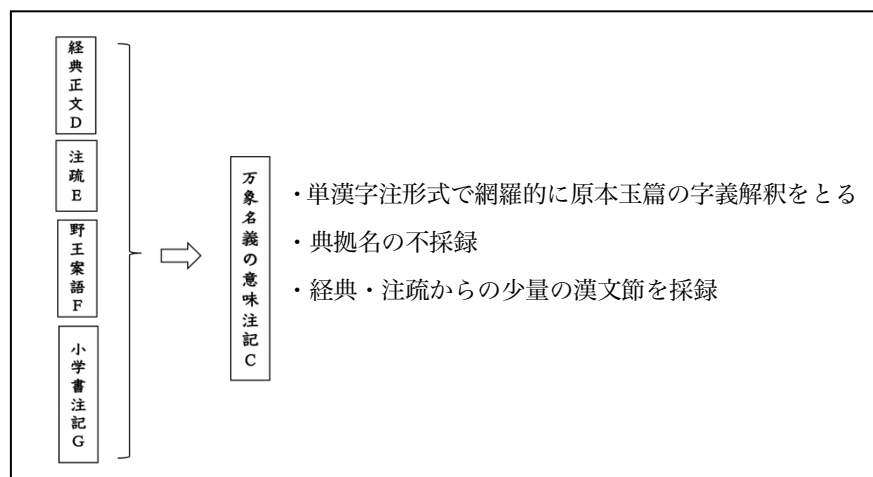


図3 『篆隸万象名義』の意味注記の形成とその特徴

## 6 篆隸万象名義の意味注記の分類

『篆隸万象名義』の意味注記を形式から分類すると、①単字注、②二字の漢文節、③三字以上の漢文節、④無義注、の四種類がある。

### 6.1 単字注

単漢字による字義の説明は、字書的属性の現れである。この意味注記のパターンは、形式的に、注文全体がほぼ単字注の集合となっており、具体的な用例を以て原本『玉篇』残巻の内容と比較すると、多義の注記を網羅的に収録していることが明らかである。これは基本的な常用字に多くみられるパターンである。単字注のみの掲出項目は約6,600項目ある。次の三つの用例において、『篆隸万象名義』と原本『玉篇』の内容とを対照し、『篆隸万象名義』の単字注が原本『玉篇』と対応する場合、該当部分の両方に下線を付した。参考に宋本『玉

篇』の内容も挙げる。

#### 例1 謹

- ・去戰反。問也、訶也、責也、怒也、宛轉也、讓也。(万象名義 第3帖17丁表 言部)
- ・去戰反。《說文》：謫問也。《蒼頡篇》：訶也。《廣雅》：謹責也、謹怒也、謹讓也。《方言》：謹喘轉也。郭璞曰：喘猶宛轉也。(玉篇殘卷 卷9 言部)
- ・詰戰切。謫問也、責也。(宋本『玉篇』 上85丁表 言部)

#### 例2 證

- ・諸孕反。告也、驗也、任也、徵也。(万象名義 第3帖17丁裏 言部)
- ・諸孕反。《論語》：其父攘羊而子證之。野王案：《說文》：證告。《楚辭》：所以證之不遠。王逸曰：證驗。《蒼頡篇》：證任也。《聲類》：證徵也。  
(原本玉篇殘卷 卷9 言部)
- ・諸孕切。證驗也。《論語》曰：其父攘羊而子證之。(宋本『玉篇』 上85丁表 言部)

#### 例3 典

- ・都殄反。則也、法也、常也、主也、經。(万象名義 第5帖68丁表 丌部)
- ・都殄反。《尚書》：有典有則、孔安國曰：謂經籍也。《周礼》：太宰之職掌建邦之六典、鄭玄曰：典常也。又曰：典婦功中士二人、鄭玄曰：典主也。野王案、舜命伯夷典朕三礼、命憂典樂、並是也。《毛詩》文王之典、《傳》曰：典法也。《尔雅》：典經也。《說文》：典五帝之書也、從冊在丌上、尊閣之也、一說典大冊也。野王案、《尚書》：有堯舜典、孔安國曰：可爲百代常行之道也、古文爲籒字、在竹部。以主職之典爲斂字、在夂部。(原本玉篇殘卷 卷18 丌部)
- ・丁殄切。經籍也。(宋本『玉篇』 中66丁裏 丌部)

『篆隸万象名義』では原本『玉篇』に在った多種の義注を網羅的に保存する傾向のあることが、上記の用例で確認できた。一方で宋本『玉篇』では、当時の基本義と認識される意味注記しかとらず、原本『玉篇』の原貌を反映していない。『篆隸万象名義』は原本『玉篇』に記載された基本義及び派生義を多く採録し、原本『玉篇』の義注記録の原貌を窺うことができるものと推定される。

## 6.2 二字の漢文節

二字の漢文節による字義の説明は、字書的属性と類書的属性の中間に位置する意味注記の形式である。具体的な説明の在り方には次のような種類がある。

二字の漢文節による字義の説明は、字書的属性と類書的属性の中間に位置する意味注記の形式である。具体的な説明の在り方には次のような種類がある。

#### ・単語

原本『玉篇』にある「語」形式の意味注記の内容をそのまま継承したもの(例4)。または、原本『玉篇』にある注記内容を二字語の形式に約したもの(例5)。

#### 例4 濃

- ・乃来反。露多。(万象名義 第5帖95丁表)
- ・乃東反。《毛詩》：零露濃々。《傳》曰濃々厚也。《說文》：露多也、廣蒼或為震字。在雨部也。(玉篇殘卷 卷19 水部)

#### 例5 工

- ・古紅反。善事也、官也、巧也。(万象名義 第5帖68丁裏)
- ・古紅反。《尚書》允釐百工。孔安國曰工官也。又曰帝曰垂汝共工。范甯曰主百工迎之官謂司空也。又曰工以納言。孔安國曰工樂官也。《考工記》審曲面勢以歸五材以辨民器謂之百工。又曰智者創物巧者述之守以世工。鄭玄曰父子世世以相教也。《毛詩》工祝致告。傳曰善其事曰工。韓詩嗟嗟臣工、工巧也。淮南玄玉百工。許叔重曰二玉為工。《說文》巧飾也。象人有規矩也、与巫同意。(玉篇殘卷 卷18 工部)
- ・上位概念による積義

原本『玉篇』では詳しく説明があるが、『篆隸万象名義』では簡略化し、上位概念「〇名」で抽象化して注記したもの。このように上位概念の積義に使用される注記のための用字には、「名」のほか、「属」「兒」「色」「言」「視」「祭」「器」「邑」「国」「地」「姓」「目」「氣」「語」「音」「鳴」「骨」「毛」「行」「肉」「汁」などがある。

#### 例6 𡵓

- ・明巾反。山名。(万象名義 第6帖1丁裏)
- ・明巾反。《山海經》：嶠山江水出焉。郭璞曰：今在汶山郡廣陽縣西大江所出也。(玉篇殘卷 卷22 山部)

### 6.3 三字以上の漢文節

三字以上の漢文節の多くは、原本『玉篇』の典拠原文や注疏から採録した内容である。類書的属性を保持した項目と言える。

#### 例7 音

- ・猗金反。金石土革絲木匏竹八音。(万象名義 第3帖25丁表)
- ・猗金反。《尚書》：八音競諧、无相奪倫。《周礼》：氏師掌六律六同陰陽之聲、皆播之以八音、金石土革絲竹木匏也。《毛詩》：德音无良。《傳》曰：音聲也。《傳》又曰：凡建邦國能命龜、田能施命作器能銘、使能造名、昇高能賦、師旅能誓、山川能述、喪紀能誄、祭祀能語、君子能此九者、可謂有德音、可以為大夫也。《礼記》：凡音之起、由人心生也、心之動、物之使然、感於物而動、故形於聲々相應故生變、々成方謂之音。鄭玄曰：宮商角徵羽雜皆音、單曰聲也。野王案：直出於響曰聲、以聲相韻曰音、故《樂記》曰：情動於中而形於聲、々成文謂之音。(玉篇殘卷 卷9 音部)
- ・於今切。《說文》曰：聲也、生於心、有節於外、謂之音、宮商角徵羽聲也、絲竹金石匏土革木音也。(宋本『玉篇』 上88丁表)

「音」の意味注記では、原本『玉篇』の『毛詩傳』の「聲也」という単字注をとらずに、

『周礼』の漢文節による説明のみを採録している。原本『玉篇』の義注内容を確認すると、「聲」と「音」は野王案語で「直出於響曰聲、以聲相韻曰音」と指摘されるように、異なる概念を指す。宋本『玉篇』の意味注記では、最初に単字注「聲也」を記した上で、後半に詳細に「聲」と「音」の説明を施している。

#### 例8 桃

- ・達高反。桃、鬼所畏也、掃不祥也。(万象名義 第4帖1丁裏)
- ・達高切。毛果也。(宋本『玉篇』 中14丁表)

「桃」に関する記述では、漢文節の「鬼所畏也、掃不祥也。」という意味注記が目される。「木部」は原本『玉篇』残巻に存在しないため、直接に比較することができないが、調べたところ、『周禮』と鄭玄の注に次の内容がある。

『周禮·夏官·戎右』：「贊牛耳桃茹。」

鄭玄注：「桃，鬼所畏也，茹，掃帚，所以掃不祥。」

『篆隸万象名義』の漢文節による意味注記は、おそらく『周禮』にある原文の「桃茹」に対する鄭玄注を採録して、「茹」を省き、上記の漢文節となったものと思われる。ここでは、『篆隸万象名義』は、本義をとらずに、桃の鬼や邪を避けるという実用的な意味のみを採録した。対照的に、宋本『玉篇』は桃の本義を採録している。『篆隸万象名義』のこの「桃」の項目は、典型的な類書的属性の掲出項目であると言える。

#### 例9 福

- ・甫伏反。昨也、羸也。〔福入：古文。〕五福：一壽、二富、三康寧、四彼德、五孝終命、鬼神所祐也、三人道所吉、又二天所貴二。(万象名義 第1帖17丁裏)
- ・方伏切。祿命也。《說文》：祐也。(宋本『玉篇』 上6丁裏)

「示部」は原本『玉篇』が存しない部分であるため、宋本『玉篇』の「福」の内容を記す。通常の『篆隸万象名義』の体例では、上下二段にそれぞれ一個ずつ項目を書写するが、この「福」の項目は、上から下まで貫いており、43文字の長文の項目となっている。反切の次に、単字注「昨也、羸也」が続くが、意味を検討すると、「昨」は「𠄎」の誤りであると分かる。また、その後ろの「羸」は「羸」とすべきである。原本影印テキストを確認すると分かるように、『篆隸万象名義』では「羸」(第六帖・貝部)と「羸」(第六帖・羊部)という字形が混同しており、構成部品はいずれも「亡四羊凡」となっている。詳細は次の通りである。意味を確認すると、羊部の「羸」は「やせこけて弱々しい」の意味で、ここの義注は貝部の「羸」であるべきことが明白である。

- ・羸 餘成反。緩也、利、曷、益也、過。(万象名義 第6帖105丁裏 貝部)
- ・羸 力媯反。弱也、病也、瘦也、疲也。(万象名義 第6帖39丁表 羊部)

続く「五福：一壽、二富、三康寧、四彼德、五孝終命」の部分は『尚書·洪範』による引用である。「鬼神所祐也、三人道所吉、又二天所貴二」は、意味の読解が難しいため、筆者

が以前調査した『篆隸万象名義』の近世写本二種（京大所蔵六冊本、台北国立故宮博物院所蔵八冊本）で確認すると、次のようにある。

・甫伏反。昨也、羸也。〔福入：古文。〕五福：一壽、二富、三康寧、四彼德、五孝終命、鬼神所祐也、三人道所吉、又云一天所貴二。

近世写本（京大所蔵六冊本、台北国立故宮博物院所蔵八冊本）

また、『篆隸万象名義』を校注する『篆隸万象名義校釈』と『中古漢字流變』の二つの著書を確認すると、それぞれ次のようになり、いずれも「未詳」とされている。

呂浩『篆隸万象名義校釈』

甫伏反。昨也、羸也。〔，古文。〕五福：一壽、二富、三康寧、四彼德、五孝終命、鬼神所祐也...  
三人道所吉又云一天所貴二。

臧克和『中古漢字流變』

甫伏反。昨也。羸也。𠄎，古文。五福：一壽、二富、三康寧、四彼德、五孝終命。鬼神所祐也。三...人道所吉；又二...人所貴二。

筆者の調査によると、西漢の楊雄の『太玄経・玄瑩』に、「天地所貴曰福、鬼神所佑曰福、人道所喜曰福」との記述があり、『篆隸万象名義』の「福」の項目と比較すると、順番が前後するものの、内容的には『太玄経・玄瑩』とほぼ一致している。筆者の高山寺本『篆隸万象名義』の原本調査によれば、「吉」から以下の内容は、かすかに上書きされた形跡が確認された。したがって、ここの語句は誤写が混入したために、難読になったものかと考えられる。また『太玄経・玄瑩』の内容と比較し、「人道」の前の「三」、及び「天」の前の「一」は元の内容の順番を提示するものかと推測される。また、「人道所吉」の「吉」は異本による注記の相違の可能性が高い。そして、最後の「貴」の後の「二」は「之」の誤りかと思われる。筆者の考案した正しい内容は次の通りである。

甫伏反。昨也、羸也。〔福入：古文。〕五福：一壽、二富、三康寧、四彼德、五孝終命、鬼神所祐也、三人道所吉、又云一天所貴之。

「福」の項目は、宋本『玉篇』の短い意味注記に対して、『篆隸万象名義』が長文の漢文節による説明を収録した、典型的な類書的属性の掲出項目であると言える。また下記で示す三つの用例のように、親族に関する意味注記も、やや長い漢文節によるものが多い。出典はほとんどが『爾雅・釋親』による。

#### 例10 甥 姪 姨

- ・甥 所京反。妻昆弟為甥。（万象名義 第1帖67丁裏）
- ・姪 徒結反。昆弟子為姪。（万象名義 第1帖70丁裏）
- ・姨 与之反。姉妹為姨。（万象名義 第1帖70丁裏）



このため、この節における TEI マークアップでは、各意味注記の構造的特性を識別・分類するために、TEI Header 内の <classDecl> 要素を用いて、定義タイプ (definition types) として分類体系 <taxonomy> を明示的に定義した。以下に示す分類は、それぞれの <def> 要素に ana 属性を通して付与される分類 ID と対応しており、機械的な解析や抽出を可能とするものである。

表 2 構造化記述するための意味注記の形式による分類

内容	分類
1 文字 (+ 「也」 でも可) 単字注	singleChar
2 文字 (+ 「也」 でも可) 二文字の漢文節	phrase-2char
3 文字 (+ 「也」 でも可) 三文字の漢文節	Phrase-3plus

```
<classDecl>
  <taxonomy xml:id="defTypes">
    <category xml:id="singleChar">
      <catDesc>単字注：1 字+也、あるいは 1 字のみ</catDesc>
    </category>
    <category xml:id="phrase-2char">
      <catDesc>二文字の漢文節：2 字+也、あるいは 2 字のみ</catDesc>
    </category>
    <category xml:id="phrase-3plus">
      <catDesc>三文字の漢文節：3 字以上</catDesc>
    </category>
  </taxonomy>
</classDecl>
```

したがって、上記の分類および定義に基づいて記述した字書項目の構造化データのツリー構造は、以下のとおりです。

```
<entry xml:id="K3_001_A62">
  └─ <form type="lemma">
    │   └─ <orth>慥</orth> ← 見出し語
    │   └─ <pron notation="fanqie">七到反</pron> ← 反切
  └─ <sense xml:id="K3_001_A62_sense_1">
    │   └─ <def ana="#phrase-3plus">言行相應也</def> ← 意味注記 (分類タグ付)
  └─ <usg type="classification"/>
    └─ <note subtype="volume" type="metadata">G27</note> ← 巻次
    └─ <note subtype="vol-radical" type="metadata">v8#88</note> ← 巻内部首番号
    └─ <note subtype="radical" type="metadata">心</note> ← 部首情報
```

## 8. TEI による『篆隸万象名義』第3帖心部の構造化データ

試みに、『篆隸万象名義』第3帖<sup>6</sup>における漢文節による注釈を含む項目について、上記の分類および定義に基づいて記述を行った。紙幅の都合上、ここでは心部に該当するデータのみを以下に示す。

<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>	</projectDesc>
<TEI xmlns="http://www.tei-c.org/ns/1.0">	<classDecl>
<teiHeader>	<taxonomy xml:id="defTypes">
<fileDesc>	<category xml:id="singleChar">
<titleStmt>	<catDesc>
<title>	単字注：1字+也、あるいは1字の
篆隸万象名義における漢文節による注釈の構造化記述	み
</title>	</catDesc>
</titleStmt>	</category>
<publicationStmt>	<category xml:id="phrase-2char">
<p>	<catDesc>
研究目的：古辞書の構造化記述	二字の漢文節：2字+也、あるいは2字のみ
</p>	</catDesc>
</publicationStmt>	</category>
<sourceDesc>	<category xml:id="phrase-3plus">
<p>	<catDesc>
平安時代漢字字書総合データベース	三字の漢文節：3字以上
(HDIC)	</catDesc>
</p>	</category>
</sourceDesc>	</taxonomy>
</fileDesc>	</classDecl>
<encodingDesc>	</encodingDesc>
<projectDesc>	</teiHeader>
<p>	<text>
この文書は『篆隸万象名義』のTEI構造化データであり、語義分類 taxonomy を含む。	<body>
</p>	<entry xml:id="K3_001_A31">
	<form type="lemma">
	<orth>

<sup>6</sup> 後に原本『玉篇』の内容との比較を行うため、本稿では、原本『玉篇』残巻の対応箇所に加え、空海原撰部分に該当する第三帖を対象として選定した。

慟  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 徒貢反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_A31\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 哀過也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_001\_A32">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 慟  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 於陸反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense

xml:id="K3\_001\_A32\_sense\_1">  
 <def ana="#singleChar">  
 愴也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_A32\_sense\_2">  
 <def ana="#singleChar">  
 食也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_A32\_sense\_3">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 懷恨也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_001\_A41">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 慄  
 </orth>

<pron notation="fanqie">  
 力質反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_A41\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 謹敬也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_A41\_sense\_2">  
 <def ana="#singleChar">  
 戚也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_A41\_sense\_3">  
 <def ana="#singleChar">  
 戰也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>

<entry xml:id="K3\_001\_A62">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 慥  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 七到反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_A62\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-3plus">  
 言行相應也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_001\_B32">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 愔  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 於樹反

</pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_B32\_sense\_2">  
 <def ana="#untyped">  
 於樹反和靜兒  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_B32\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-3plus">  
 和靜兒  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_001\_B42">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 惛  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 女飢反  
 </pron>

</form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_B42\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 心慙也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_001\_B42\_sense\_2">  
 <def ana="#singleChar">  
 翹也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_001\_B61">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 惹  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 如耶反  
 </pron>  
 </form>

```

<sense
xml:id="K3_001_B61_sense_1">
  <def ana="#singleChar">
    淹也
  </def>
</sense>
<sense
xml:id="K3_001_B61_sense_2">
  <def ana="#phrase-2char">
    詰諦
  </def>
</sense>
<usg type="classification"/>
<note subtype="volume"
type="metadata">
  G27
</note>
<note subtype="vol-radical"
type="metadata">
  v8#88
</note>
<note subtype="radical"
type="metadata">
  心
</note>
</entry>
<entry xml:id="K3_002_A11">
  <form type="lemma">
    <orth>
      憇
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      蒲骨反
    </pron>
  </form>
</sense

```

```

xml:id="K3_002_A11_sense_1">
  <def ana="#phrase-2char">
    迷惛也
  </def>
</sense>
<sense
xml:id="K3_002_A11_sense_2">
  <def ana="#singleChar">
    乱也
  </def>
</sense>
<usg type="classification"/>
<note subtype="volume"
type="metadata">
  G27
</note>
<note subtype="vol-radical"
type="metadata">
  v8#88
</note>
<note subtype="radical"
type="metadata">
  心
</note>
</entry>
<entry xml:id="K3_002_A22">
  <form type="lemma">
    <orth>
      招
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      勅驕反
    </pron>
  </form>
</sense
xml:id="K3_002_A22_sense_1">

```

```

    <def ana="#phrase-2char">
      悵悵也
    </def>
  </sense>
  <usg type="classification"/>
  <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
  </note>
  <note subtype="vol-radical"
type="metadata">
    v8#88
  </note>
  <note subtype="radical"
type="metadata">
    心
  </note>
</entry>
<entry xml:id="K3_002_A32">
  <form type="lemma">
    <orth>
      悵
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      他姑反
    </pron>
  </form>
  <sense
xml:id="K3_002_A32_sense_1">
    <def ana="#phrase-3plus">
      感憂愁也
    </def>
  </sense>
  <usg type="classification"/>
  <note subtype="volume"

```

```

type="metadata">
    G27
  </note>
  <note subtype="vol-radical"
type="metadata">
    v8#88
  </note>
  <note subtype="radical"
type="metadata">
    心
  </note>
</entry>
<entry xml:id="K3_002_A41">
  <form type="lemma">
    <orth>
      憚
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      他紺反
    </pron>
  </form>
  <sense
xml:id="K3_002_A41_sense_1">
    <def ana="#phrase-2char">
      蜎蟬也
    </def>
  </sense>
  <sense
xml:id="K3_002_A41_sense_2">
    <def ana="#singleChar">
      監也
    </def>
  </sense>
  <usg type="classification"/>
  <note subtype="volume"
type="metadata">

```

G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_002\_A51">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 慙  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 芳烈反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_A51\_sense\_1">  
 <def ana="#singleChar">  
 惡也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_A51\_sense\_2">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 急性也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27

</note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_002\_A52">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 愷  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 除承反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_A52\_sense\_2">  
 <def ana="#untyped">  
 除承反矢志兒  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_A52\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-3plus">  
 矢志兒  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>

<note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_002\_A61">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 恠  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 禹萌反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_A61\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 愷恠也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_002\_B21">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 恠  
 </orth>

</note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_002\_B11">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 恠  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 力難反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_B11\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-3plus">  
 欺謾言也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_002\_B21">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 恠  
 </orth>

<pron notation="fanqie">  
 禹貴反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_B21\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 不安也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_002\_B22">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 懣  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 昌厲反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_B22\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-3plus">

懣敗不和也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_002\_B62">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 悞  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 瑜主反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_B62\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 憂懼也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_002\_B62\_sense\_2">  
 <def ana="#singleChar">  
 愈也

```

    </def>
  </sense>
  <usg type="classification"/>
  <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
  </note>
  <note subtype="vol-radical"
type="metadata">
    v8#88
  </note>
  <note subtype="radical"
type="metadata">
    心
  </note>
</entry>
<entry xml:id="K3_003_A41">
  <form type="lemma">
    <orth>
      愁
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      妄遵反
    </pron>
  </form>
  <sense
xml:id="K3_003_A41_sense_1">
    <def ana="#phrase-2char">
      恂愁也
    </def>
  </sense>
  <usg type="classification"/>
  <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
  </note>

```

```

    <note subtype="vol-radical"
type="metadata">
    v8#88
  </note>
  <note subtype="radical"
type="metadata">
    心
  </note>
</entry>
<entry xml:id="K3_003_B12">
  <form type="lemma">
    <orth>
      恂
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      徒結反
    </pron>
  </form>
  <sense
xml:id="K3_003_B12_sense_1">
    <def ana="#phrase-3plus">
      惶劇惡性也
    </def>
  </sense>
  <usg type="classification"/>
  <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
  </note>
  <note subtype="vol-radical"
type="metadata">
    v8#88
  </note>
  <note subtype="radical"
type="metadata">
    心

```

</note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_003\_B21">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 恠  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 達冬反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_003\_B21\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 惶遽也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_003\_B22">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 懽  
 </orth>

<pron notation="fanqie">  
 欣業反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_003\_B22\_sense\_1">  
 <def ana="#singleChar">  
 劫也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_003\_B22\_sense\_2">  
 <def ana="#singleChar">  
 怯也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_003\_B22\_sense\_3">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 畏迫也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>

<pre> &lt;entry xml:id="K3_003_B51"&gt;   &lt;form type="lemma"&gt;     &lt;orth&gt;       憊     &lt;/orth&gt;     &lt;pron notation="fanqie"&gt;       力支反     &lt;/pron&gt;   &lt;/form&gt;   &lt;sense xml:id="K3_003_B51_sense_1"&gt;     &lt;def ana="#phrase-2char"&gt;       多端也     &lt;/def&gt;   &lt;/sense&gt;   &lt;usg type="classification"/&gt;   &lt;note subtype="volume" type="metadata"&gt;     G27   &lt;/note&gt;   &lt;note subtype="vol-radical" type="metadata"&gt;     v8#88   &lt;/note&gt;   &lt;note subtype="radical" type="metadata"&gt;     心   &lt;/note&gt; &lt;/entry&gt; </pre>	<pre>     &lt;/pron&gt;   &lt;/form&gt;   &lt;sense xml:id="K3_003_B61_sense_1"&gt;     &lt;def ana="#phrase-2char"&gt;       愼惶也     &lt;/def&gt;   &lt;/sense&gt;   &lt;usg type="classification"/&gt;   &lt;note subtype="volume" type="metadata"&gt;     G27   &lt;/note&gt;   &lt;note subtype="vol-radical" type="metadata"&gt;     v8#88   &lt;/note&gt;   &lt;note subtype="radical" type="metadata"&gt;     心   &lt;/note&gt; &lt;/entry&gt; &lt;entry xml:id="K3_004_A11"&gt;   &lt;form type="lemma"&gt;     &lt;orth&gt;       惇     &lt;/orth&gt;     &lt;pron notation="fanqie"&gt;       呼衡反     &lt;/pron&gt;   &lt;/form&gt;   &lt;sense xml:id="K3_004_A11_sense_1"&gt;     &lt;def ana="#phrase-2char"&gt;       愼惇也     &lt;/def&gt; </pre>
--	---

```

    </sense>
    <usg type="classification"/>
    <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
    </note>
    <note subtype="vol-radical"
type="metadata">
    v8#88
    </note>
    <note subtype="radical"
type="metadata">
    心
    </note>
</entry>
<entry xml:id="K3_004_A12">
    <form type="lemma">
    <orth>
    悽
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
    時紙反
    </pron>
    </form>
    <sense
xml:id="K3_004_A12_sense_1">
    <def ana="#phrase-2char">
    怙恃也
    </def>
    </sense>
    <usg type="classification"/>
    <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
    </note>
    <note subtype="vol-radical"

```

```

type="metadata">
    v8#88
    </note>
    <note subtype="radical"
type="metadata">
    心
    </note>
</entry>
<entry xml:id="K3_004_A42">
    <form type="lemma">
    <orth>
    儻
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
    他莽反
    </pron>
    </form>
    <sense
xml:id="K3_004_A42_sense_1">
    <def ana="#phrase-3plus">
    无思慮兒也
    </def>
    </sense>
    <usg type="classification"/>
    <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
    </note>
    <note subtype="vol-radical"
type="metadata">
    v8#88
    </note>
    <note subtype="radical"
type="metadata">
    心
    </note>

```

</entry>	丘廉反
<entry xml:id="K3_004_B12">	</pron>
<form type="lemma">	</form>
<orth>	<sense
恍	xml:id="K3_004_B21_sense_1">
</orth>	<def ana="#phrase-2char">
<pron notation="fanqie">	失倚也
齒終反	</def>
</pron>	</sense>
</form>	<usg type="classification"/>
<sense	<note subtype="volume"
xml:id="K3_004_B12_sense_1">	type="metadata">
<def ana="#phrase-2char">	G27
心動也	</note>
</def>	<note subtype="vol-radical"
</sense>	type="metadata">
<usg type="classification"/>	v8#88
<note subtype="volume"	</note>
type="metadata">	<note subtype="radical"
G27	type="metadata">
</note>	心
<note subtype="vol-radical"	</note>
type="metadata">	</entry>
v8#88	<entry xml:id="K3_004_B22">
</note>	<form type="lemma">
<note subtype="radical"	<orth>
type="metadata">	倚
心	</orth>
</note>	<pron notation="fanqie">
</entry>	去奇反
<entry xml:id="K3_004_B21">	</pron>
<form type="lemma">	</form>
<orth>	<sense
槭	xml:id="K3_004_B22_sense_1">
</orth>	<def ana="#phrase-2char">
<pron notation="fanqie">	儉意也

```

    </def>
  </sense>
  <usg type="classification"/>
  <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
  </note>
  <note subtype="vol-radical"
type="metadata">
    v8#88
  </note>
  <note subtype="radical"
type="metadata">
    心
  </note>
</entry>
<entry xml:id="K3_004_B42">
  <form type="lemma">
    <orth>
      憐
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      丈又反
    </pron>
  </form>
  <sense
xml:id="K3_004_B42_sense_1">
    <def ana="#phrase-2char">
      愁毒也
    </def>
  </sense>
  <usg type="classification"/>
  <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
  </note>

```

```

    <note subtype="vol-radical"
type="metadata">
    v8#88
  </note>
  <note subtype="radical"
type="metadata">
    心
  </note>
</entry>
<entry xml:id="K3_004_B52">
  <form type="lemma">
    <orth>
      懷
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      力甚反
    </pron>
  </form>
  <sense
xml:id="K3_004_B52_sense_2">
    <def ana="#untyped">
      力甚反懷悲吟兒
    </def>
  </sense>
  <sense
xml:id="K3_004_B52_sense_1">
    <def ana="#phrase-3plus">
      懷悲吟兒
    </def>
  </sense>
  <usg type="classification"/>
  <note subtype="volume"
type="metadata">
    G27
  </note>
  <note subtype="vol-radical"

```

type="metadata">	</entry>
v8#88	<entry xml:id="K3_004_B62">
</note>	<form type="lemma">
<note subtype="radical">	<orth>
type="metadata">	心
心	</orth>
</note>	<pron notation="fanqie">
</entry>	力牛反
<entry xml:id="K3_004_B61">	</pron>
<form type="lemma">	</form>
<orth>	<sense
悞	xml:id="K3_004_B62_sense_1">
</orth>	<def ana="#phrase-3plus">
<pron notation="fanqie">	烈宿留也
力計反	</def>
</pron>	</sense>
</form>	<usg type="classification"/>
<sense	<note subtype="volume"
xml:id="K3_004_B61_sense_1">	type="metadata">
<def ana="#phrase-2char">	G27
悲吟也	</note>
</def>	<note subtype="vol-radical"
</sense>	type="metadata">
<usg type="classification"/>	v8#88
<note subtype="volume">	</note>
type="metadata">	<note subtype="radical"
G27	type="metadata">
</note>	心
<note subtype="vol-radical"	</note>
type="metadata">	</entry>
v8#88	<entry xml:id="K3_005_A42">
</note>	<form type="lemma">
<note subtype="radical">	<orth>
type="metadata">	愍
心	</orth>
</note>	<pron notation="fanqie">

普狄反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_005\_A42\_sense\_1">  
 <def ana="#singleChar">  
 猝也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_005\_A42\_sense\_2">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 急速也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_005\_A51">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 愷  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 呼麦反

</pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_005\_A51\_sense\_1">  
 <def ana="#singleChar">  
 乖也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_005\_A51\_sense\_2">  
 <def ana="#singleChar">  
 戾也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_005\_A51\_sense\_3">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 不慧也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_005\_A62">  
 <form type="lemma">

```

<orth>
  𪔵
</orth>
<pron notation="fanqie">
  眉隕反
</pron>
</form>
<sense
xml:id="K3_005_A62_sense_1">
  <def ana="#phrase-2char">
    多病也
  </def>
</sense>
<usg type="classification"/>
<note subtype="volume"
type="metadata">
  G27
</note>
<note subtype="vol-radical"
type="metadata">
  v8#88
</note>
<note subtype="radical"
type="metadata">
  心
</note>
</entry>
<entry xml:id="K3_005_B21">
  <form type="lemma">
    <orth>
      𪔶
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      所革反
    </pron>
  </form>

```

```

<sense
xml:id="K3_005_B21_sense_1">
  <def ana="#singleChar">
    譜也
  </def>
</sense>
<sense
xml:id="K3_005_B21_sense_2">
  <def ana="#phrase-2char">
    驚兒也
  </def>
</sense>
<usg type="classification"/>
<note subtype="volume"
type="metadata">
  G27
</note>
<note subtype="vol-radical"
type="metadata">
  v8#88
</note>
<note subtype="radical"
type="metadata">
  心
</note>
</entry>
<entry xml:id="K3_005_B41">
  <form type="lemma">
    <orth>
      怯
    </orth>
    <pron notation="fanqie">
      苦脅反
    </pron>
  </form>
</sense>

```

xml:id="K3_005_B41_sense_1">	<pron notation="fanqie">
<def ana="#phrase-2char">	懼方反
畏苟也	</pron>
</def>	</form>
</sense>	<sense
<sense	xml:id="K3_005_B42_sense_1">
xml:id="K3_005_B41_sense_2">	<def ana="#singleChar">
<def ana="#phrase-2char">	儻也
持去也	</def>
</def>	</sense>
</sense>	<sense
<sense	xml:id="K3_005_B42_sense_2">
xml:id="K3_005_B41_sense_3">	<def ana="#phrase-3plus">
<def ana="#phrase-2char">	進取也狂古文
難去也	</def>
</def>	</sense>
</sense>	<usg type="classification"/>
<usg type="classification"/>	<note subtype="volume"
<note subtype="volume"	type="metadata">
type="metadata">	G27
G27	</note>
</note>	<note subtype="vol-radical"
<note subtype="vol-radical"	type="metadata">
type="metadata">	v8#88
v8#88	</note>
</note>	<note subtype="radical"
<note subtype="radical"	type="metadata">
type="metadata">	心
心	</note>
</note>	</entry>
</entry>	<entry xml:id="K3_006_A32">
<entry xml:id="K3_005_B42">	<form type="lemma">
<form type="lemma">	<orth>
<orth>	慙
慙	</orth>
</orth>	<pron notation="fanqie">
</orth>	

渠月反	</def>
</pron>	</sense>
</form>	<sense
<sense	xml:id="K3_006_A52_sense_2">
xml:id="K3_006_A32_sense_1">	<def ana="#singleChar">
<def ana="#phrase-2char">	樂也
強力也	</def>
</def>	</sense>
</sense>	<sense
<usg type="classification"/>	xml:id="K3_006_A52_sense_3">
<note subtype="volume"	<def ana="#singleChar">
type="metadata">	獸也
G27	</def>
</note>	</sense>
<note subtype="vol-radical"	<sense
type="metadata">	xml:id="K3_006_A52_sense_4">
v8#88	<def ana="#singleChar">
</note>	怠也
<note subtype="radical"	</def>
type="metadata">	</sense>
心	<sense
</note>	xml:id="K3_006_A52_sense_5">
</entry>	<def ana="#phrase-2char">
<entry xml:id="K3_006_A52">	早預也
<form type="lemma">	</def>
<orth>	</sense>
惡	<sense
</orth>	xml:id="K3_006_A52_sense_6">
<pron notation="fanqie">	<def ana="#singleChar">
古縣反	辨也
</pron>	</def>
</form>	</sense>
<sense	<sense
xml:id="K3_006_A52_sense_1">	xml:id="K3_006_A52_sense_7">
<def ana="#singleChar">	<def ana="#singleChar">
急也	供也

</def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_006\_A52\_sense\_8">  
 <def ana="#singleChar">  
 敘也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_006\_B31">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 憤  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 楚革反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_006\_B31\_sense\_1">  
 <def ana="#singleChar">  
 情也  
 </def>

</sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_006\_B31\_sense\_2">  
 <def ana="#singleChar">  
 鳴也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_006\_B31\_sense\_3">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 耿介也  
 </def>  
 </sense>  
 <sense  
 xml:id="K3\_006\_B31\_sense\_4">  
 <def ana="#singleChar">  
 呼也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_006\_B32">  
 <form type="lemma">  
 <orth>

忪  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 青公反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_006\_B32\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 惶遽也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_006\_B42">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 忪  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 且弄反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense

xml:id="K3\_006\_B42\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 惚恫也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"  
 type="metadata">  
 G27  
 </note>  
 <note subtype="vol-radical"  
 type="metadata">  
 v8#88  
 </note>  
 <note subtype="radical"  
 type="metadata">  
 心  
 </note>  
 </entry>  
 <entry xml:id="K3\_007\_A42">  
 <form type="lemma">  
 <orth>  
 慾  
 </orth>  
 <pron notation="fanqie">  
 瑜注反  
 </pron>  
 </form>  
 <sense  
 xml:id="K3\_007\_A42\_sense\_1">  
 <def ana="#phrase-2char">  
 貪慾也  
 </def>  
 </sense>  
 <usg type="classification"/>  
 <note subtype="volume"

type="metadata">	<sense
G27	xml:id="K3_007_A62_sense_1">
</note>	<def ana="#phrase-3plus">
<note subtype="vol-radical"	言果敢也
type="metadata">	</def>
v8#88	</sense>
</note>	<usg type="classification"/>
<note subtype="radical"	<note subtype="volume"
type="metadata">	type="metadata">
心	G27
</note>	</note>
</entry>	<note subtype="vol-radical"
<entry xml:id="K3_007_A62">	type="metadata">
<form type="lemma">	v8#88
<orth>	</note>
𢇛	<note subtype="radical"
</orth>	type="metadata">
<pron notation="fanqie">	心
下介反	</note>
</pron>	</entry>
</form>	

## 9. おわりに

本稿では、『篆隸万象名義』における漢文節による注釈を分析し、その構造化記述の試みを行った。原本『玉篇』の内容との比較を念頭に、対応箇所が残巻に加え、空海による原撰部分に該当する第3帖を対象として選定し、心部に関する構造化データを提示した。これは、単字注、二字および三字以上の漢文節の抽出に有効なデータであり、他文献との比較や異なるデータとの連携を容易にする点でも有用である。今後、『篆隸万象名義』全体における漢文節を含む注釈項目のTEIによる構造化記述を完成させることで、こうしたデータを活用した原本『玉篇』との内容比較が一層精緻に行えるようになり、大部分が散逸した原本『玉篇』の内容再構にも資するものと期待される。

## 参考文献

- 池田証壽 (2014a) 「平安時代漢字字書総合データベースの構築」『北海道大学文学研究科紀要』142 pp.79-90.
- 池田証壽 (2014b) 「平安時代漢字字書総合データベース：現状と課題 2014 夏」『漢デジ 2014—デジタル翻刻の未来』京都大学人文科学研究所附属東アジア人文情報学研究センター pp.3-43.
- 岡井慎吾 (1933) 『玉篇の研究』、東洋文庫
- 岸田知子 (1992) 「『篆隸万象名義』の字義について」『密教文化』178 pp.1-18.
- 小島憲之 (1977) 「空海訓詁の学の一面」『国語国文』46 (4) 中央図書出版社 pp.58-70.
- 白藤禮幸 (2006) 「玉篇と篆隸万象名義」『書籍之路與文化交流国際學術研討會 要旨集』中国・杭州 pp.49-50.
- 李媛 (2015a) 「篆隸万象名義の本文データベースの構築 —玉篇残巻対応部分を中心に—」『国語国文研究』146 北海道大学国語国文学会 pp.80-65.
- 李媛 (2015b) 「埋字と脱字 —篆隸万象名義の掲出字数をめぐる問題—」『訓点語と訓点資料』135 訓点語学会 pp.37-56.
- 李媛・池田証壽 (2016) 「篆隸万象名義の全文テキストと公開システム」『じんもんこん 2016 論文集』情報処理学会 pp.95-102.
- 李媛 (2017) 「楊守敬蒐集『篆隸万象名義』近世写本初探」『日本語学会 2017 年度春季大会予稿集』日本語学会 pp.89-96.
- 李媛 (2021) 「篆隸万象名義における漢文節の意味注記について」『日本語文字論の挑戦：表記・文字・文献を考えるための 17 章』東京：勉誠社 pp.116-137.
- 呂浩 (2007) 『篆隸萬象名義校釋』上海：学林出版社
- 臧克和 (2008) 『中古漢字流變』上海：東華師範大學出版社
- 趙青 (2006) 「原本玉篇与宋本玉篇释义比较研究」
- Ikeda Shoju and Li Yuan (2018) , “Building a General Database System of Chinese Characters Dictionaries in Early Japan: Tenreibanshōmeigi in HDIC Project”, *Journal of the Graduate School of Letters*, Volume 13, Graduate School of Letters Hokkaido University, pp.49-64.
- 『人文学のためのテキストデータ構築入門：TEI ガイドラインに準拠した取り組みに向けて』、人文情報学研究所監修、石田ほか編、文学通信、pp.206-240、2022 年 7 月。
- TEI Consortium. TEI P5: Guidelines for Electronic Text Encoding and Interchange, Version 4.9.0, revision f73186978 (24th January 2025) , <https://tei-c.org/release/doc/tei-p5-doc/en/Guidelines.pdf>

附記：本研究は JSPS 科研費 JP21K18013 の助成を受けたものである。